

東北地方 1か月予報

(6月9日から7月8日までの天候見通し)

平成19年6月8日
仙台管区気象台発表

<特に注意を要する事項>

1週目は気温がかなり高くなる日がある見込みです。健康管理に注意してください。

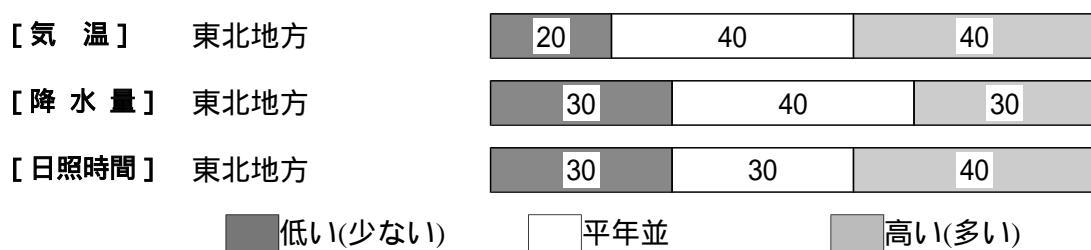
<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
東北地方は期間の初めは平年に比べ晴れの日が多いでしょう。その後は前線やオホーツク海高気圧の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

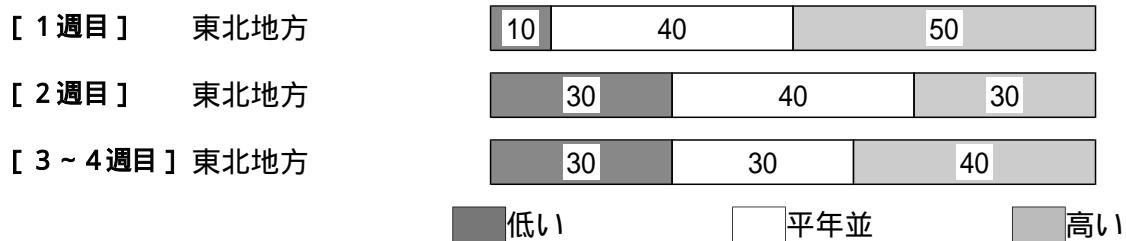
向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率がともに40%です。

週別の気温は、1週目は高い確率が50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 6月 9日(土) ~ 7月 8日(日)
1週目 : 6月 9日(土) ~ 6月 15日(金)
2週目 : 6月 16日(土) ~ 6月 22日(金)
3~4週目 : 6月 23日(土) ~ 7月 6日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は6月15日
3か月予報：6月25日(月) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
青森	17.9	90.2	173.4	16.7	17.3	18.5
深浦	18.1	123.5	170.9	16.8	17.5	18.9
むつ	16.4	120.8	151.8	15.4	15.9	17.0
八戸	17.0	114.6	160.3	16.0	16.4	17.5
秋田	19.7	158.3	165.5	18.5	19.3	20.4
盛岡	19.0	134.2	139.4	18.0	18.5	19.4
大船渡	18.1	179.9	138.9	17.1	17.6	18.6
宮古	16.9	133.5	132.4	15.9	16.3	17.4
仙台	19.1	161.6	114.9	18.1	18.6	19.5
石巻	18.4	129.5	132.9	17.4	18.0	19.0
山形	20.3	122.3	139.4	19.5	19.8	20.8
新庄	19.5	163.7	139.2	18.5	19.0	20.0
酒田	20.2	162.1	161.5	19.1	19.7	20.7
福島	20.6	139.5	117.4	19.9	20.1	21.0
若松	20.6	146.2	144.5	19.7	20.2	21.1
白河	19.1	190.6	109.4	18.3	18.7	19.6
小名浜	19.1	163.4	125.6	18.0	18.6	19.6

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.6 ~ +0.5	85 ~ 115	93 ~ 107
東北日本海側	-0.5 ~ +0.3	78 ~ 107	94 ~ 105
東北太平洋側	-0.6 ~ +0.5	87 ~ 107	91 ~ 110

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6 ~ +0.5	-0.6 ~ +0.5	-0.5 ~ +0.4
東北日本海側	-0.6 ~ +0.3	-0.6 ~ +0.4	-0.5 ~ +0.5
東北太平洋側	-0.7 ~ +0.7	-0.6 ~ +0.5	-0.6 ~ +0.4

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成19年6月8日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(6月9日~7月8日) :

東北地方は期間の初めは平年に比べ晴れの日が多いでしょう。その後は前線やオホーツク海高気圧の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

平均気温は平年並または高い確率がともに40%です。

1週目(6月9日~6月15日) :

期間の初めと終わりは気圧の谷の影響で曇りや雨となります。期間の中頃は高気圧に覆われておおむね晴れるでしょう。なお、期間の初めは大気の状態が不安定となり、雷や突風、ひょうなどのおそれがありますので注意が必要です。

平均気温は高い確率が50%です。

2週目(6月16日~6月22日) :

前線やオホーツク海高気圧の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

3~4週目(6月23日~7月6日) :

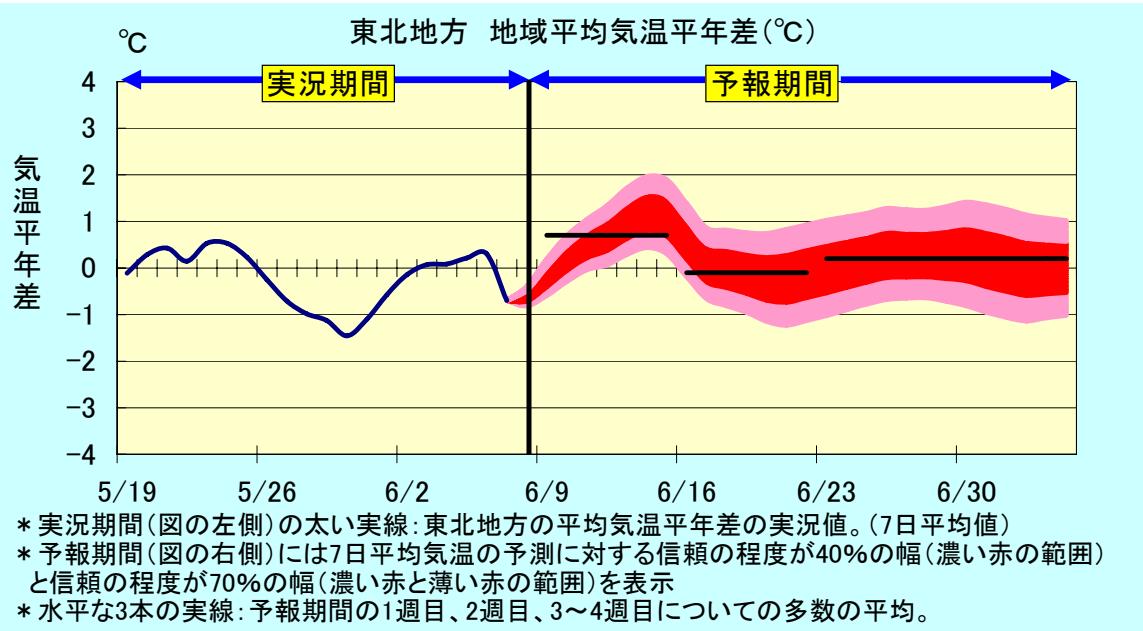
前線やオホーツク海高気圧の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	12.1日	3.5日	3.0日	5.6日
東北太平洋側	10.1日	3.0日	2.5日	4.6日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別のアンサンブル平均気温は、1週目は平年を上回る予想となっており、2週目、3~4週目は平年付近の予想となっている。

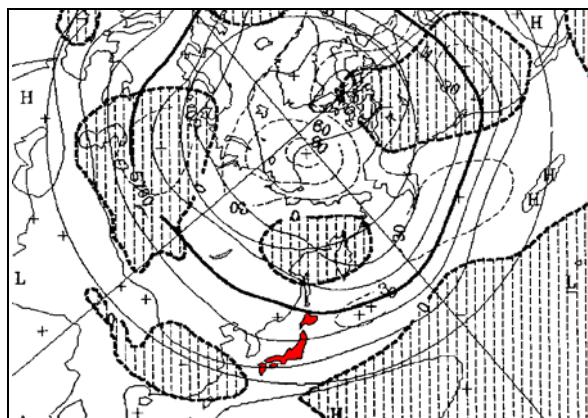


3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500 hPa 予想天気図)

1か月平均: 日本付近は正偏差で気温は高くなりやすい。日本の南東海上とオホーツク海付近は負偏差で、太平洋高気圧およびオホーツク海高気圧の勢力が平年より弱い時期がある見込み。その期間は前線や湿った東風の影響を受けにくい。

1週目: 日本付近は北日本を中心に正偏差。日本の南海上とオホーツク海付近は負偏差で、前線や湿った東風の影響を受けにくい。850hPa 温度は北日本を中心に強い正偏差で(図略) 気温は高くなる見込み。

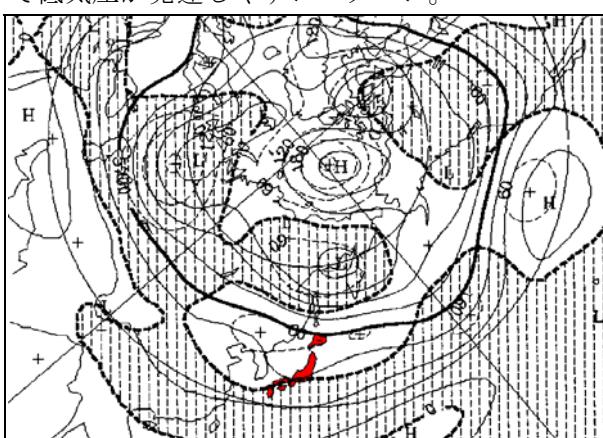
2週目: 日本の南岸付近とオホーツク海付近の負偏差は解消し、1週目に比べ前線や湿った東風の影響を受けやすい。850hPa 温度の正偏差も弱まり高温傾向は解消する見込み。日本付近は西谷で低気圧が発達しやすいパターン。



1か月平均 500hPa 予想天気図

(図の見方は1, 2週目と同じ)

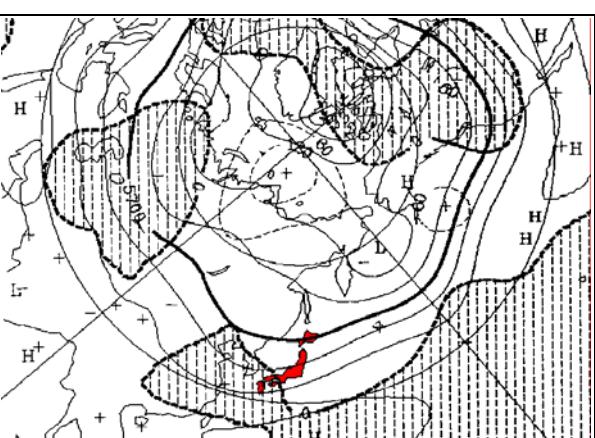
ただし平年差の間隔は 30m 毎)



1週目平均 500 hPa 予想天気図

実線は、等高度線（間隔 60m）、点線は、平年差（間隔 60m）

陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する 白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

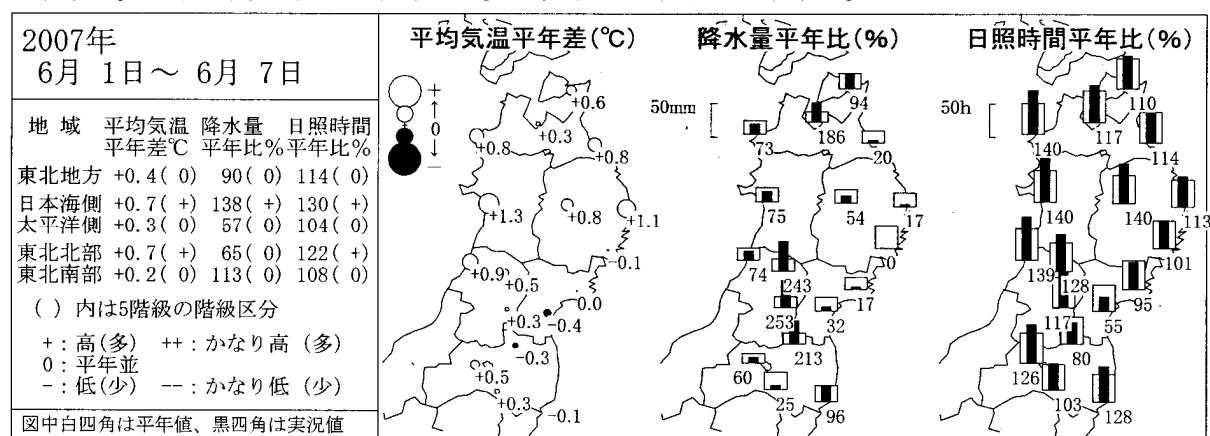


2週目平均 500 hPa 予想天気図

4. 最近1週間 (6月1日～6月7日) の天候の経過

東北地方は高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、東北太平洋側では湿った東風の影響で曇りとなった日もあった。6日から7日にかけては、上空に寒気を伴った気圧の谷が東北地方を通過したため、一時雷を伴う激しい雨となるところがあった。このため停電や、鉄道が一時運休するなどの影響が出た。また宮城県ではひょうによる農作物の被害があった。

平均気温は東北北部で高く、東北南部で平年並。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）